

平成 2 4 年度  
G 8 5 6 － 5 0  
県単道路補修工事（橋梁補修）

## 特 記 仕 様 書

平成 2 4 年 9 月  
仙北地域振興局建設部

## 1. 共通仕様書の適用

本工事の施工にあたっては、「秋田県土木工事共通仕様書（平成24年4月1日以降適用）」に基づき実施しなければならない。

## 2. 共通仕様書に対する特記事項

共通仕様書に対する特記事項は次のとおりとする。

# 第1章 総 則

## 1-1. 工事概要

本工事は、一般県道西山生保内線（仙北市田沢湖生保内字駒ヶ岳地内）において、先達川を跨ぐ位置に架かる「先達川橋」について、既設上部工撤去、上部工架替及び下部工補修を実施するものである。施工に際し、観光路線であることから、架設については昼間片側交互通行によるものとしている。

## 1-2. 官公庁等への手続等

請負者は、工事着手前に道路交通法第77条第1項による道路使用許可を受け、その写し及び許可条件等を監督職員に提出するとともに、関係機関（関係市、消防、交通機関等）に所定の用紙に基づいて連絡すること。

## 1-3. 現場発生品

既設橋梁上部の撤去により発生する橋体、高欄等については、大仙市飯田地内（飯田高架橋下）に搬入するものとする。

なお、搬入にあたっては、事前に監督職員と協議しなければならない。

## 1-4. 施工管理

- （1）本工事に用いる規格値は、共通仕様書（施工管理基準）によるものとし、共通仕様書に定めのない工種の管理にあたっては監督職員と協議するものとする。
- （2）本工事においては、主桁架設位置に関する管理は座標値によるものとし、その測点及び規格値は監督職員と協議するものとする。
- （3）上記の管理等に必要な基準等の現況測量成果は、受注後に別途貸与する。

## 1-5. 現地調査及び照査

契約書及び共通仕様書に基づき、現地精査及び設計照査の上、製作施工するものとする。なお、これに要する費用については、共通架設費に含まれているものとする。

## 1-6. 中間検査

共通仕様書第1編 1-1-31により行う中間検査の実施段階は次によるものとする。

工種		実施段階	実施回数
鋼橋上部	工場製作工	※実仮組立を行う場合 仮組立完了時	1回
鋼橋上部	プレキャスト床版	工場製作の途中	1回

## 第2章 材 料

### 2-1. 再生資材の使用

本工事に使用する再生資材は次表のとおりとする。

材料名	規格	使用箇所	備考
再生クラッシャーラン	RC-40	路盤	取付道路
再生加熱As混合物	②密粒度アスコン(20)	表層	取付道路
	②密粒度アスコン(20)改質Ⅱ型	表層	橋面

### 2-2. コンクリートの配合

下記工種のコンクリートは、レディーミクストコンクリート標準使用基準の次の規格によるものとする。

工種	呼び 強度 N/mm <sup>2</sup>	スランプ cm	粗骨材 最大寸法 mm	最小 セメント量 kg/m <sup>3</sup>	最大 水セメント比 %	セメント の種類	摘要
・地覆工	24	8	25	—	55	普通ポルトランドセメント	
・胸壁・橋座打替工	24	8	25	—	55	普通ポルトランドセメント	

### 2-3. 無収縮モルタル

本工事で使用する無収縮モルタル(セメント系)は、プレミックス製品を標準とする。

### 2-4. 伸縮装置

伸縮装置は、埋設型で設計伸縮量30mmに対応可能なものとし、使用材料について予め監督職員と協議するものとする。

### 2-5. 橋梁用高欄

橋梁用高欄の仕様は、防護柵種別B種(横・縦棧型レール2、高さ0.85m)とし、使用材料について監督職員の承諾を得るものとする。

### 2-6. 鉄筋継手

鉄筋の機械式継手は、公的認定機関の認定を受けた機械式継手を使用するものとし、これにより難しい場合は監督職員と協議するものとする。

## 2－7．橋面防水層

橋面防水層の仕様は、シート系（流し貼り型）とする。

## 第3章 鋼橋上部

### 3－1．橋梁仮組立

共通仕様書第1編3－12－3（14）の仮組立は、計算機を用いた仮組立シミュレーションによる部材精度管理や部分仮組立による代替等により実仮組立を簡略化できるものとするが、これによりがたい場合は監督職員と協議するものとする。

### 3－2．塗装工

塗装仕様はC－5塗装系とし、塗料の種類、塗装回数及び各層毎の使用量は、「鋼道路橋塗装・防食便覧」（平成17年12月、社団法人日本道路協会）によるものとする。

### 3－3．架設足場

架設足場は床版工にも使用するものとする。これにより難い場合は、別途協議する。

平成 2 4 年度  
G 8 5 6 － 5 0  
県単道路補修工事（橋梁補修）

# 現 場 説 明 書

〔条件明示〕

平成 2 4 年 9 月  
仙北地域振興局建設部

# 現場説明書（条件明示）

工事の実施にあたっては、秋田県土木工事共通仕様書、同施工管理基準・品質管理基準及びその他指定された図書を参考とし、かつ以下の事項について施工条件とします。

## 第 1 編 共 通 編

### 第 1 節 参考図書

設計図書の外に提示する「参考図書」については、入札参加者の迅速な見積りに対しての資料として提示するもので、請負契約上拘束するものではないので留意して下さい。

### 第 2 節 積算基準

工事費の積算は、以下の積算基準に基づき実施しています。

- (1) 土木工事標準積算基準書〔共通編〕（平成23年10月以降適用）秋田県建設交通部
- (2) 土木工事標準積算基準書〔道路編〕（平成23年10月以降適用）秋田県建設交通部
- (3) 土木工事標準積算基準書〔参考資料〕（平成24年4月以降摘要）秋田県建設部
- (4) 建設機械等損料算定表（平成23年10月以降適用）秋田県建設交通部

## 第 2 編 現場説明事項（条件明示）

### 第 1 節 工程関係

1. 本工事は、通年施工できるものとして見積もって下さい。
2. 本工事は、関係機関との協議により、夜間通行止めによる架設はできないことから、昼間片側交互通行による一般交通を確保しながらの切り替え施工とします。
3. 本工事の施工にあたり、関係機関等から施工方法及び時間的制約条件を付された場合は別途協議します。

### 第 2 節 用地関係

1. 施工に伴う仮設用地はA 1 橋台背面の民有地（妙の湯駐車場）を使用できるものとして見積もって下さい。

### 第 3 節 公害対策関係

1. 本工事の施工にあたっては、通常の施工方法によるものとしていますが、万一公害が生じたり又は生ずるおそれのある場合には、別途協議します。

### 第 4 節 安全対策関係

1. 交通管理に要する交通誘導員は720人日（交通誘導員B、交代要員有り）を計上していますが、施工状況に応じて必要な場合は別途協議します。

2. 施工時において、本橋梁を通行する観光客等の安全を確保するため、仮設歩道の設置について別途協議するものとします。

## 第5節 特定建設資材の分別解体等・再資源化等

1. 既設橋梁撤去により発生する橋体、高欄等は、大仙市飯田地内、運搬距離61.4km、運搬回数4回の飯田高架橋下へ搬入するものとして見積もって下さい。
2. 舗装版取壊しにより発生するアスファルト殻は、仙北市田沢湖生保内上手倉地内、運搬距離19.2kmの(有)進藤産業（生保内処理場）へ搬出するものとして見積もって下さい。
3. コンクリート取壊しにより発生する無筋・鉄筋コンクリート殻は、仙北市田沢湖生保内上手倉地内、運搬距離19.2kmの(有)進藤産業（生保内処理場）へ搬出するものとして見積もって下さい。

## 第6節 鋼橋上部工

1. 上部工の施工は、片側交互通行を確保しながら、上下流側の分割施工とします。
2. 製作した桁の輸送の起点は東京として見積もって下さい。落札者が最寄りの工場を所有する場合は設計変更します。
3. 鋼材・副資材費、高力ボルト、大型ゴム支承は一般管理費のみ対象として見積もって下さい。

## 第7節 床版工

1. 床版工場所打ち接合部（機械継手部）は、無収縮モルタルを使用するものとし見積もって下さい。なお、夜間施工及び交通規制が必要な場合は別途協議します。

## 第8節 共通工

1. 作業足場（主体足場）損料は、1.0ヶ月間として見積もって下さい。

## 第9節 その他

1. 当該工事における施工条件について、明示されなかった新たな事項が発生した場合は、別途協議します。
2. その他、問題等が発生した場合は、監督職員と協議して下さい。

## 第10節 主任技術者等の現場への専任について

1. 契約締結後、現場施工に着手するまでの期間（現場事務所の設置、資機材の搬入又は仮設工事等が開始されるまでの間）については、主任技術者又は監理技術者の工事現場への専任を要しません。

なお、現場施工に着手する日は、監督職員との打ち合わせで定めることとします。

2. 工事完成後、検査が終了し（発注者の都合により検査が遅延した場合を除く）、事務手続き、後片づけ等のみが残っている契約工期内については、主任技術者又は監理技術者の工事現場への専任を要しません。なお、検査が終了した日は、完成検査確認通知書の日付とします。

### 第 1 1 節 設計変更に伴う契約変更の取扱い

1. 本工事に係る設計変更は、その変更が生じた都度、総括監督員がその変更内容を掌握し、当該変更の内容が予算の範囲内であることを確認したうえ、「工事打合簿」により監督員を通じて行うものとする。ただし、変更内容が軽微なものは、監督員ができるものとする。
2. 設計変更に伴う契約変更の手続きは、その必要が生じた都度、遅滞なく行うものとする。ただし、軽微な設計変更に伴うものは、工期の末に行うことをもって足りるものとする。
3. 前項の軽微な変更に伴うものとは、次に掲げるもの以外のものをいう。
  - ① 構造・工法・位置・断面等の変更で重要なもの
  - ② 「工事打合簿」による変更見込額の合計額が、当該契約額の 3 0 % 又は 1 千万円を超えるもの